

## 亡き藤田若雄先生へ

社会科学研究所長 佐藤 信行

本学・大学院行政学研究科博士課程の新設に大学院部長として御盡力され、この『社会科学ジャーナル』に行政学特集号が誕生する矢先き、先生の訃報に接しました。そして、御逝去後、日を重ねるにつれて、私には残念の想いが一層つのってくるのです。

実は、先生は新設認可のあとは研究生活にもどりたい。できれば君の研究地域であるラテン・アメリカで共同研究ができればと申され、私はフィールド・ワークの準備にとりかかっていたところでした。

私の所長就任後、社会科学研究所の学際的共同計画に口火を切って下さったのも、先生でした。言葉だけでなく、野外調査計画の煩瑣な書類に積極的に助言され、訂正下さったのも先生でした。私は、近々アマゾンの奥地やアンデスの鉱山でフィールドすることになる先生の姿に、自分の姿を二重写しにしてきました。

このような先生をうしなったことは、本研究所にとって、きわめて大きな打撃です。そればかりではありません。社会科学科にとっても、また国際基督教大学、さらには社会にとって惜しい人をうしなったものです。しかしながら、先生の薫陶を受けた多くの人々が、先生の学問分野を継承発展させてゆくことでしょう。

私は、先生のご逝去を悼むとともに、先生のご偉業の数々を私たちの財産としてお守りしてゆきたいと思っています。